定禅寺通

定禅寺通は、仙台中心部を東西に走る並木道です。この通りは、定禅寺にちなんで名づけられました。定禅寺は、有力な武将・大名だった伊達政宗（1567～1636 年）が 17 世紀初頭に青葉城を造り城下町を築いたのと同じ時代に建てられた寺院です。定禅寺はもうありませんが、定禅寺通はこの街の初期の歴史にさかのぼる場所であり、「杜の都」仙台の遺産であり続けています。

移り変わる季節

定禅寺通の両側と定禅寺通の中央を走る遊歩道沿いには、ケヤキの木（日本のニレ）が植えられています。ケヤキの樹々は、春と夏の間、仙台に瑞々しい緑をもたらしてくれます。秋には、葉は深い金色に変わり、その後ハラハラと落ちて地面を覆います。冬には、仙台光のページェントの一部として枝は光で彩られます。

コミュニティのための場

定禅寺通にはお店やレストランが並び、仕事終わりや週末の歩道は人々でにぎわいます。中央部の遊歩道の長さは約 700 メートルで、ベンチ、花壇、彫刻が設けられています。この通りでは、人気の催しが数多く開かれています。お祭りの際や市が立つ時には、遊歩道に屋台が設置されることもあります。9 月には、定禅寺通ジャズフェスティバルの一部として歩道でミュージシャンたちが演奏します。10 月には、みちのく YOSAKOI まつりの見どころであるダンスパレードのために通りの一部は通行止

めになります。

杜の都

政宗は、徳川家康（1543～1616 年）から領地を与えられた後、17 世紀初頭に仙台を築きました。政宗は徳川方につき、関ヶ原の戦い（1600 年）では家康を支持しました。関ヶ原の戦いは、徳川幕府の成立に至る決め手となった戦いです。この戦いにより、戦国時代は終わりましたが、当時は、平和が続くかどうか不確かでした。政宗は、城下町を築く際、家臣たちに命じ、各々の屋敷中に飢饉に備えて竹や果樹を植えさせました。また、城下町の境界に沿って杉林を設けさせました。その結果、仙台は緑に囲まれ、杜の都として知られるようになったのです。第二次世界大戦中の空襲の間に、元々の緑の多くは失われましたが、定禅寺通や青葉通といった緑豊かな通りは、この遺産を継承しています。